

日本の中小企業は世界の奇跡です。

日本の企業数は三百五十万社あり、その内の九十九%が中小企業です。日本が世界的に競争力が弱いのは、中小企業が多すぎるからだ。だから半数にすべきだという、外国の評論家がありますが、こちらは余りに皮相的な見方です。

百年企業は、世界で約八万社ですが、日本には三万三千社あり四十一%に相当します。二百年企業になれば、世界で約二千社あり、日本には千三百社、六十五%もあります。

これらが示すことは、日本の経営者は、世界の経営者とは「仕事観」や「人生観」が、違うということです。

先ず一つ目に、経済的な側面だけが優先される欧米とは、「仕事」に対する姿勢が違うのです。「先義後利」や「三方良し」が、日本の中小企業の我々には、自然に身に付いています。二つ目に、日本は一人一人の「庶民」が、しっかりと自立し日本をリードしているところとです。

それと比較し、欧米では一部のエリートが驚くような高額な報酬を取り、多くの庶民は、道具として使われている。はつきり言うところ「愚民政策」の国です。

国が亡ぶ三つの兆候があると云われます。

- 一つ、理想を失った国。
- 二つ、すべての価値を金に換算して是とする国。
- 三つ、歴史を忘れた国。

いかがでしょうか。

我々、中小企業を経営する者は、意識するか、意識しないかは別にして、仕事を通じて日本を経済的に、精神的に支えているのです。

だから、自分の仕事に誇りと自信が持てるのです。

上場企業でさえ日本の社長の給料は、欧米の社長に比べ桁違いに低額です。

まして、我々中小企業の社長は、もっと低いですが、案外、日々活き活きと、喜んで働いています。

「仕事」とは、事に仕える。つまり、日々の仕事が、即、修業であり、心を磨き、人間性を高めているということを知る国民なのです。

さあ、社長、今日が人生最高の一日です。頑張りましょう。

今月のポイント

日本の将来は明るい!!

